思い出

昭和５９～昭和６０年度下水道課長　大浦　弘

昭和５８年７月２７日から翌２８日にかけて、小矢部市内山地内から石川県津幡町南横根地内で、幅、長さとも１Km前後、最大層厚８０ｍで南東方向に２０～３０ｍ移動するなど、全国的にも屈指の深層地すべりが発生し、大災害となりました。

当時、私は小矢部土木事務所で本復旧のため関係する各機関の御助言、御支援をいただきながら、津幡町を含む関係する地域の復旧工法、用地等の地元説明、工事発注計画を関係者と協議していたところに、下水道課長に異動内示を受け驚愕したことを今でも鮮明に記憶しています。

下水道課では、小矢部川流域下水道事業二上浄化センター建設を日本下水道事業団に委託し、すでに一部工事に着手しており、二上地区連合自治会とは「二上浄化センター公害防止協定書」が結ばれ、一方、県議会に対し昭和６２年度末一部供用開始を表明されており、小矢部川流域下水道事業の円滑な推進が最大の課題でした。

当時、建設省から水谷潤太郎（現日本上下水道設計㈱）さんが出向され、流域の建設担当として、建設省、事業団との事業調整、推進に御苦労されていましたが、突然本人からアメリカテキサス大学に留学するとの申し出があり、建設省と協議し５月１９日付けで県を退職されました。この頃と相前後して建設省流域下水道課では、６２年度末一部供用開始を延ばせないかと執拗に打診を始めて来ました。

下水道協議会の設立について、かねてより関係者で協議されてきましたが、林孝二郎都市計画課長（現千葉市都市局長に出向）さんの深い御理解で、富山県都市計画協会から独立し、昭和５９年７月１６日事業団計画部長安藤茂さんを招き設立総会を催しました。

一方、建設省では流域下水道課長に斉藤健次郎さんが事業団計画部長から着任されました。斉藤さんには、計画部長時代に種々のことで御心労を煩わせていましたが、就任後は小矢部川流域に特段の御理解を示され、管渠築造費の追加増、特に管渠築造を別枠で事業団に委託施行する事前協議を自ら行う等の心あたたまる御高配をいただきました。

日本下水道事業団とは、水処理施設、ブロワー棟、汚泥処理棟、沈砂池・・・等の建設及び機械電気設備等と、汚泥処理方法の基本方針の協議も済ませ、６２年度末一部供用にむけてに目途が立ちました。

現地では、二上地区連合自治会長豊嶌耕さん、中井道行さん、岸勇さんほか関係する皆様のあたたかい御理解と、事業団富山工事事務所の皆様の御努力で浄化センター建設も計画どおり順調に進められました。

終わりにあたり、私と供に御苦労された下水道課の皆様方に心から感謝申し上げまして思い出といたします。